

**場所** 千葉県千葉市

**面積** 10.17ha

**活動目的** かつての里山を再生し、地域住民の憩いや環境教育、レクリエーションの場として活用するとともに、地域の生物多様性保全に貢献することを目的とする。



**サイト概要** 千葉県千葉市若葉区に位置する、都市近郊の里山環境を活かした体験と学びの場。区域内には、ビオトープ、里山林、田んぼなど二次的自然環境に特徴的な多様な生態系がモザイク状に広がっており、ニホンアカガエルなど多様な生物が生息。一年を通して米づくりや森づくり、自然体験のイベントに多くの市民が訪れる。最近は生きものや地下水・湧水などの学びの講座も開かれるようになった。

## 土地利用の 変遷

かつては市内に130ほどあった谷津の多くが埋め立てなどの改変で失われた。堂谷津は現存する30余りの谷津の一つで千葉市の谷津田等保全区域に指定されている。農林業の場であった堂谷津には長い間二次的自然が維持されてきたが、経済環境の変化により農林業から切り離された堂谷津は、保全区域であることから改変は免れてはいたものの、かつての二次的自然を失いつつあった。そこで2012年に千葉市内外の都市住民がNPO法人を結成し、堂谷津の環境保全活動と谷津田の自然の活用に取り組むに至る。

## サイト周辺の 環境

サイトの周辺には杉林や台地の畑が続き、近くを流れる鹿島川の流域には水田地帯が広がる。当サイトから約5kmの地点に千葉市中心部と公共交通機関でつながる人口約1.7万人の住宅団地がある。堂谷津の斜面林周辺には資材や産廃の置き場等も増え保全区域への影響が懸念される。

## アピール ポイント

これまでに植物462種のほかチョウ、トンボ、両生類、爬虫類、ほ乳類、鳥類等多くの生きものの生育・生息を確認している。冬期湛水田では二ホンアカガエル卵塊数の増加など生物多様性の回復傾向も確認。また、わずか10.17haのひろがりの中に谷津田やビオトープ、湧水、湧水池、里山林などが連なるため、そこで行われる米づくり体験は人と植物の共生関係だけでなく、人と自然の繋がりに気づく機会も提供する。



## 生物多様性の価値

## 価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

## 【場の概況】

里山林や水田、ビオトープ、ため池、草地等、様々な環境が形成されている。谷津に広がる水田は、湧水利用の無農薬・冬期湛水不耕起の稲作が行われる。水田に続く湿地、斜面林と繋がる環境は、多様な生物の生育・生息環境となっている。

## 【主な植生】

里山林の主な植生は、コナラ、クヌギ、イヌシデなどの落葉広葉樹林、シイ、カシ類などの常緑広葉樹、スギ人工林、林床はシュンラン、スミレ類等、一部アズマネザサに覆われている。水田は冬期湛水・不耕起・無農薬の米作り、湿地には、ガマ、ヨシ、オギなどの抽水植物、タコノアシ、タデ類、草地はシロツメクサ、オオバコなどの野草が広がる。

## 【確認された主な動植物など】

里山林：イカリソウ (*Epimedium*)、ワニグチソウ (*Polygonatum involucreatum*)  
 クロヤツシロラン (*Gastrodia pubilabiata* Y. Sawa)  
 ミヤマセセリ (*Erynnis montanus* Bremer)、ヒカゲチョウ (*Lethe sicelis*)  
 カトリヤンマ (*Gynacantha japonica*)、ニホンアナグマ (*Meles anakuma*)  
 草 地：トモエソウ (*Hypericum ascyron*)、シロツメクサ (*Trifolium repens*)  
 カントウタンポポ (*Taraxacum platycarpum*)  
 水 田：ニホンアカガエル (*Rana japonica*)、ミナミメダカ (*Oryzias latipes*)  
 イチョウウキゴケ (*Ricciocarpos natans*)、ダイサギ (*Ardea alba*)  
 湿 地：ヘイケボタル (*Luciola lateralis*)、タコノアシ (*Penthorum chinense*)  
 オオヨシキリ (*Acrocephalus orientalis*)、カワセミ (*Alcedo atthis*)  
 その他：サシバ (*Butastur indicus*)、ノスリ (*Buteo japonicus*)



写真の撮影年月：2020年4月  
 写真の説明：野草が咲く春の里山林



写真の撮影年月：2021年2月  
 写真の説明：ニホンアカガエルの卵塊

## 生物多様性の価値

## 価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

## 【場の概況】

里山林や水田、ビオトープ、ため池、草地等の様々な環境は、多様な生物が生息・生育する豊かな生態系となっている。それらの自然環境を生かし、米作り体験、自然観察、森あそび、植樹、野草料理、稲わらを使ったお正月飾り作りなど自然や文化とのふれあいや学びを楽しめるようにしている。

## 【主な植生】

里山林の主な植生は、コナラ、クヌギ、イヌシデなどの落葉広葉樹林、シイ、カシ類などの常緑広葉樹、スギ人工林、林床はシュンラン、スミレ類等、一部アズマネザサに覆われている。水田は冬期湛水・不耕起・無農薬の米作り、湿地にはガマ、ヨシ、オギなどの抽水植物、タコノアシ、タデ類、草地にはシロツメクサ、オオバコなどの野草が広がる。

## 【確認された主な動植物など】

植物462種（草本341種、シダ植物22種、樹木99種、イネ科未確認）：アオイスミレ、アカネスミレ、シュンラン、ササバギンラン、ジュウニヒトエ、ニリンソウ、リンドウ、ヤマユリ、イヌザクラ、ウワミズザクラなど  
 チョウ57種：キタテハ、キタキチョウ、ヤマトシジミ、ヒカゲチョウなど  
 トンボ22種：シオカラトンボ、アキアカネ、オニヤンマ、ニホンカワトンボなど  
 両生類5種：ニホンアカガエル、アズマヒキガエル、シュレーゲルアオガエルなど  
 爬虫類8種：ニホンカナヘビ、ヒガシニホントカゲ、ニホンマムシ、ヤマカガシなど  
 哺乳類10種：ホンドタヌキ、ニホンアナグマ、イタチ、ノウサギ、アライグマなど  
 鳥類43種：モズ、ウグイス、シジュウカラ、コゲラ、メジロ、カワセミ、サシバ、ノスリ、ダイサギなど



写真の撮影年月：2022年6月

写真の説明：みんなで楽しく田植え（親子で米作り体験）



写真の撮影年月：2023年5月

写真の説明：春の自然観察

## 生物多様性の価値

## 価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

## 【場の概況】

水田、ビオトープ、草地、斜面林等で構成する里山である。通年で里山を管理、米づくり、森づくりに取り組んだ結果、希少な動植物の生息・生育が確認される場所となる。

## 【確認された希少種】

2013年4月～2023年3月に実施した調査において、以下の通り、希少種が確認されている。

- タコノアシ (*Penthorum chinense*、環境省レッドリスト準絶滅危惧)
- イカリソウ (*Epimedium*、千葉県レッドリスト要保護生物)
- ワニグチソウ (*Polygonatum involucreatum*、千葉県レッドリスト要保護生物)
- クロヤツシロラン (*Gastrodia pubilabiata* Y. Sawa、千葉県レッドリスト要保護生物)
- ミヤマセセリ (*Erynnis montanus* Bremer、千葉県レッドリスト重要保護生物)
- ヒオドシチョウ (*Nymphalis xanthomelas*、千葉県レッドリスト重要保護生物)
- キイロサナエ (*Asiagomphus pryeri*、環境省レッドリスト準絶滅危惧)
- カトリヤンマ (*Gynacantha japonica*、千葉県レッドリスト重要保護生物)
- サシバ (*Butastur indicus*、環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類)
- ノスリ (*Buteo japonicus*、千葉県レッドリスト要保護生物)
- フクロウ (*Strix uralensis*、千葉県レッドリスト重要保護生物)
- ニホンアカガエル (*Rana japonica*、千葉県レッドリスト最重要保護生物)
- アズマヒキガエル (*Bufo japonicus formosus*、千葉県レッドリスト要保護生物)
- ヘイケボタル (*Luciola lateralis*、千葉県レッドリスト要保護生物)
- ミナミメダカ (*Oryzias latipes*、環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類)
- ニホンアナグマ (*Meles anakuma*、千葉県レッドリスト要保護生物)
- 他7種



写真の撮影年月：2022年5月

写真の説明：サイト内で確認されたワニグチソウ



写真の撮影年月：2017年6月

写真の説明：サイト内で確認されたサシバ

## サイトの活動計画・モニタリング計画

## 活動計画の内容

## 〈活動目的〉

谷津田の自然と里山における人と自然のかかわり方を次世代に伝えるとともに、体験を通して生物多様性の大切さを普及する。

## 〈活動内容〉

申請区域を①里山林、②谷津田、③ビオトープに分け、上述の価値（3）、（4）、（6）の保全に貢献するよう以下の保全・利用活動を行う。

## ①里山林：

樹種の現況調査に基づく目標林型を指針に、多様な林相の里山林を保全し里山林に特徴的な生物相の回復を目指す。自然観察路などを整備して、生物相の調査などに活用する。管理は毎週1～2回、通年で行う。里山林にある活動広場は、草刈り等により保全活動や環境教育などの拠点としての機能を維持する。

## ②谷津田：

谷津の沖積層の地下水保全に取り組みつつ、湧水による米づくりを進める。栽培は不耕起栽培とし、冬期湛水の水管理や農薬不使用などにより豊かな生物相の回復を目指す。管理は毎週1～2回、通年で実施する。

## ③ビオトープ：

用水量などの制約から米づくりが困難な区画はビオトープとして管理し、ため池や湧水地点とともに湿地に特徴的な生物相の回復に努める。管理は毎週1～2回、通年で実施。

## 〈実施体制、計画の点検・見直し〉

NPO法人バランス21が中心となってこれ等の保全・利用活動その他維持管理作業を行う。地下水の保全等については専門家の助言を得る。本活動計画は2年に1回点検するとともに、5年に1回程度改定する。

## モニタリング計画の内容

## 【モニタリング対象】

植物（草本）、チョウ、トンボ、鳥  
ニホンアカガエル卵塊、ヘイケボタル、ミナミメダカ

## 【モニタリング場所】

里山林、水田、ビオトープなど

## 【モニタリング手法】

植物：ラインセンサス  
チョウ・トンボ・鳥・ミナミメダカ：任意観察法  
ニホンアカガエル卵塊：踏査法  
ヘイケボタル：踏査法・定点法

## 【モニタリングの実施時期及び頻度】

植物：通年 月1回  
チョウ・トンボ・鳥・ミナミメダカ：通年  
ニホンアカガエル：2～3月 週1回  
ヘイケボタル：7～8月 週1回

## 【モニタリング実施体制】

調査員（NPO会員）